

地方創生 2.0 基本構想の策定に向けての意見

大野市長 石山志保

地方創生 2.0 基本構想の策定に当たっては、改めて原点に立ち返り、まち・ひと・しごと創生法に掲げる地方創生の目的である「急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していく」ことが達成されるよう、地方創生 2.0 による様々な施策によって、国や地方公共団体、事業者や住民、みんなの機運が盛り上がり、みんなが一体となって取り組まれていくことを望みます。

このことを踏まえ、次の点について意見を述べます。

① 少子化対策について

- 地方創生 2.0 の基本姿勢・視点の人口減少を正面から受け止めたうえでの施策展開について、この先の 10 年間は日本全体での自然減は受け止めざるを得ず、人口減少社会にあることを踏まえ、少ない担い手で「稼ぐ、支える」を行っていくことが求められると考えます。
- 今後の人口減少のペースを緩やかにするための出生数の改善をはじめとした少子化対策は、地方公共団体の運営を預かる首長の立場として、基礎自治体のみで行うことは難しいと考えており、国全体をどのように維持していくのかという観点から国が主導して進めていただきたいと思います。

② インフラの整備について

- インフラの更新需要や老朽化、災害への備えの必要性が全国的に進んでおり、インフラ更新需要等への対応が急務であります。
- また、インフラの更新以前に、地方においては、地方創生に不可欠な高規格道路のミッシングリンクが生じています。ミッシングリンクの解消をはじめ広域交通ネットワークの整備は、国においてしっかりと進めていただきたいと思います。

③ みんなが希望をもって取り組める仕組みづくりについて

- 付加価値創出型の新しい地方経済やイノベーション、産官学の地方移転といった言葉について理解をしつつも、言葉のみを見ると、人口 10 万人など一定規模以上の自治体を想定している印象を受けます。

地方創生 2.0 を起動させるに当たっては、小規模自治体や過疎地域などにおいても希望をもって地方創生の取組が進められるよう、仕組みづくりをお願いしたいです。

④ 地域資源を積極的に活用する取組の推進と支援について

- 地域資源を活用していくという姿勢が大切です。付加価値創出型の新しい地方経済の創生の中でも触れられている地域資源の徹底活用を積極的に推進し、地域の独自性、多様性ある取組を支えていただきたいと思います。

大野市の主な取組例

●地域資源である星空を観光コンテンツとして磨き上げ

美しさ日本一に選ばれた「星空」× 光害への普及・啓発活動
× 高規格道路の延伸 × 観光誘客・事業者の稼ぐ力の向上

●豊かな森林を活用した地域脱炭素の取組

市域の約9割を占める豊かな森林 × 森の保全による CO2 吸収
× 木質バイオマス発電所への安定供給